



学校だより

令和6年1月31日

ひびき

2月号

昭和54年3月3日制定

横浜市立獅子ヶ谷小学校

大谷選手から寄贈のグローブが届きました

校長 大塩 啓介

二月に入りました。今年度も残すところあと二か月となりました。児童は落ち着いた様子で学校生活を送っています。授業中は集中して学習に取り組み、ICT 端末を活用して様々な活動を行っています。また、休み時間にも大きなけがもなく、元気に過ごしています。

さて、先週末に世間で話題となっている大谷選手からのグローブが届きました。グローブについているタグですらオークションなどに出回るなど、少し異常なぐらいの感じですが、学校としては、その取り扱いには慎重を期しています。とはいえ、大谷選手が「野球をやろうぜ」という言葉とともに、児童に託した思いを汲みながら、進めていこうと考えています。

まず、1月29日（月）朝、放送で児童に紹介した後、六年生から順番にクラスごとに回し、まずはグローブに手を入れてその感触を味わってもらいました。最初、持った時は思ったよりも軽くて意外な感じでしたが、ボールをつかもうとするとしっかりした感じがありました。報道の通り、右利き用の大小、左利き用と計三つのグローブがありました。700名を超える児童がおり、児童の興味も様々ですので、今後の活用方法はまた考えていきたいと思いますが、6月1日（土）に予定している創立記念式典後のフェスティバルの時に、キャッチボールのブースを設けて、そこで、使ってみたい児童にキャッチボールを行ってもらおうと考えています。

来年度、横浜市では一斉に同じメール配信システムを導入します。本校では、メール、電話、連絡帳でご連絡をいただいていたのですが、来年度からは原則一本化いたします。また、学校のプリントもこの配信システムを使ってペーパーレス化を進めます。また、これも横浜市一斉に「学習支援システム」といわれるものも導入され、端末を用いて様々な取組をこれまで以上に進めていくこととなります。現在、本校は試行校としてこのシステム運用の試験を行っていますが、端末の持ち帰りを含めて、来年度からまた大きく変わっていくことが想定されています。

学校の教育活動がコロナ禍を経て大きく変わってきています。知識・理解・技能だけが重要視されていた過去の学力観の捉えから、思考力や主体的に学びに向かう姿勢などを重視するように変化しています。「個別最適な学び」「協働的な学び」をキーワードに、学び方や授業の在り方までが変わってきています。それに伴い、「あゆみ」を含め、児童の学習の様子・成果についての伝え方をどうしていくことがよいのか検討をしています。

大きな変化の流れが止まることなく、次々と課題として出てきている状況です。今年度も残り少なくなってきましたが、こうした状況にご理解をいただければ幸いです。